

住み慣れた地域で助け合う 「地域包括ケアシステム」とは

▶ 問合せ 役場福祉課



地域包括ケアシステムとは、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生最期まで続けられるよう、「医療・介護・予防・生活支援・住まい」の5つのサービスが相互に連携しながら提供されるしくみです。

武豊町の少子超高齢社会が進む今、必要な「地域包括ケアシステム」の構築

現在、国が進める地域包括ケアシステムの構築は、高齢者人口の急速な増加への対応策としてスタートし、市町村ごとに進められています。少子高齢化が加速する中、団塊世代が75歳以上となる2025年以降は、国民の医療や介護の需要が増えることが想定されています。そういった背景から、国は医療と介護を病院や施設等で行うものから在宅で行うもの、つまり住み慣れた地域の中で最期まで自分らしい生活ができるように、地域の包括的な支援・サービス提供体制「地域包括ケアシステム」の構築を推進しています。

重要な「自助」と「互助」の推進

地域包括ケアシステムは、介護保険等の社会保障（共助）や生活保護等の福祉（公助）等制度によるサービス提供のみではなく、町民のみなさんが自らの健康維持や予防に取り組むこと（自助）や、ご近所同士の見守りや声かけ、老人クラブや自治会等の住民組織による助け合い、町民によるボランティア活動や生きがづくり等、町民のみなさんが主体的に参加すること、住民同士が地域社会の中でつながり支え合うこと（互助）の2つがとても重要です。

武豊町の取組

地域ケア会議等の開催

- ・地域課題の共有
- ・保健、医療、福祉、地域の関係者等の協働による個別支援の充実
- ・地域の共通課題や取り組みの共有



人生会議（ACP）の普及

誰もが迎える人生の最終段階の生き方や医療ケアの希望について、元気な時に近い人と話し合い、書き留めておく「わたしノート」を普及。



各種市民講演会の開催

認知症や介護予防、終末期医療や看取り等、最新の話題を盛り込んだ講演会やイベントを開催。

